

## 自衛隊の仕事や活動について学ぶ授業を開催

### 御殿場市立高根中学校



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、11月7日（木）と8日（金）、御殿場市立高根中学校において各学年に応じた職業講話や防災教育などを行った。

1年生には職業講話を行った。陸・海・空自衛隊それぞれの特性をはじめ、国内における24時間365日の警戒監視活動や世界各地における国際平和協力活動、そして近年の大規模自然災害に対する人命救助活動について説明を行った。生徒からは給料や休日の過ごし方など、自衛官の日々の生活についての質問が多く寄せられた。

2年生は部隊で2日間に渡り職場体験を行った。初日は板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊において、同部隊が静岡県の警備や災害対応を担任していることを学んだほか、部隊行動や規律の維持に欠かせない基本教練を実際に体験した。2日目は駒門駐屯地（同市）機甲教導連隊において主に前日に体験した基本教練を復習しつつ、更に部隊を指揮する分隊長の号令を一人一人が体験し、隊員顔負けの元気な声で号令を響かせた。そして職業体験の最後を飾ったのは74式戦車の乗車走行体験。戦車の迫力のもとより、隊員たちの安全に配慮した的確かつ迅速な連携に生徒たちは圧倒されていた。

一方、3年生には防災教育を行った。沼津地域事務所長の羽中田大作二等陸尉の過酷な災害派遣活動での体験談からはじまり、心肺蘇生法、AEDの使用体験実習、先日の台風19号到来の際、実際に現地で数多く活用された土のうの作成方法などを学んだ。そして最後は、消防署の救急車よりも多くの患者を一度に運ぶことのできる自衛隊の大型救急車、通称「アンビ」に実際に乗車し、車内外を見学した。

生徒たちからは、「今回のような学習は初めてで、自衛隊の活動や自衛官の日々の仕事がよくわかった」「具体的な救助方法を学ぶことができ、命の大切さをより一層感じた」といった声が多く聞かれた。

静岡地本は引き続き、将来を担う若者に対して自衛隊の活動を積極的に広報し、自衛官の仕事を知ってもらえるよう取り組んでいく。

## 今年もGタンクとしずぽんが合同で広報 御前崎市大産業まつり



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、11月23日（土）と24日（日）、御前崎市役所周辺で開催された「御前崎市大産業まつり」において、航空自衛隊御前崎分屯基地（同市）と合同で広報活動を実施した。

この催しは、御前崎市イベント実行委員会が主催し、同市の産業や特産品の魅力を発信する一大イベント。公安関係機関とともに自衛隊も昨年引き続き参加した。会場メインステージでの各種催しのほか、100を超える出店が立ち並び、2日間で約3万人もの来場者で賑わった。

自衛隊ブースでは陸・海・空の広報官が自衛官になるためのコースを紹介したほか、今年広範囲に被害をもたらした台風19号の災害派遣活動の写真パネル展示や、過酷な派遣活動中の隊員の活力の源となる非常用糧食の展示などを実施。そして、御前崎分屯基地からは大型トラックとともに、軽装甲機動車に乗った御前崎のヒーロー「Gタンク」が出動。さらに同分屯基地司令の松本安弘二等空佐自ら広報活動に参加し、静岡地本マスコットキャラクター「しずぽん」とともにイベントを大いに盛り上げた。

広報官から話を聞いた地元の高校2年生は「来年は大学受験ですが、自衛隊にもとても興味があります。大学進学と併願で自衛官の受験も考えていきます」と話してくれた。

静岡地本は、今後も部隊、市町、協力団体と緊密に連携して、自衛隊の各種活動を広く紹介し、さらなる防衛基盤の強化に努めていく。